

重い精神障害をもつ者における震災後の生活実態

～相双地域における精神保健福祉手帳所持者に対する調査の実施～

研究分担者 鈴木友理子¹⁾

研究協力者 種田綾乃²⁾ 深澤舞子¹⁾ 佐藤さやか²⁾ 吉田光爾²⁾ 永松千恵²⁾

1) 独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 成人精神保健研究部

2) 独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 社会復帰研究部

要旨

【目的】 東日本大震災の被災地における、重い精神障害をもつ人の、震災にともなう変化や影響、震災後における生活実態、および本人や家族（主たるケア提供者）の認識するニーズを明らかにし、今後のよりよい地域生活のために必要な支援を明らかにすることを目的とする。

【方法】 本調査は、南相馬市健康福祉部と共同で実施し、福島県南相馬市における精神障害者保健福祉手帳を所持している者全員（n=220）を本研究の対象として横断研究を行った。人口統計学的変数、東日本大震災の被災状況、精神障害をもつ人の生活領域、医療に関する情報、本人が認識する生活の満足度、ニーズ、今後の生活への希望領域の項目および、精神的健康度（World Health Organization-Five Well-Being Index）について対象者本人、あるいは支援者に回答を求めた。

【結果】 平成26年1月に調査票を220名（精神障害者保健福祉手帳1級：30名、2級：138名、3級：52名）に発送した。平成26年2月末日現在、116件の回収があった（回収率：52.7%）。詳細については、現在解析中である。

【考察】 本調査の回答率は52.7%であり必ずしも高くはないが、被災地域において、精神障害をもつ人本人を対象とした調査は、筆者が知る限りいまままでに行われておらず、震災前後の生活状況およびその関連要因が明らかになることが期待される。

【結論】 このような調査は初めての取り組みであり、重い精神障害をもつ人びとの大規模災害前後の生活実態を明らかにすることで、今後の保健福祉施策に資する基礎資料となるだろう。

A. 研究目的

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方の沿岸部をはじめとする広範囲な地域において、地域生活の基盤を破壊するようなきわめて甚大な被害をもたらした。地域精神保健医療福祉の現場においても例外ではなく、3年が経過しようとしている現在においても、地域精神保健システムの復旧や強化のために、中

長期にわたる継続支援が必要とされている地域は多数存在する。

本研究班では、平成24年度に被災地の精神保健医療福祉関連の機関・団体に従事する現地支援者に対するヒアリング調査をおこなった。それによれば、①震災により既存の福祉サービス網や精神科医療網の破壊が生じ、それらの復旧・復興が求められているが、さらに、②今回

の震災被災地は、従来から精神保健医療に関する社会資源が必ずしも十分ではなく、中長期的な視点での立て直しには、それを考慮したうえでの新たなシステムの設計が求められている現状が明らかになった¹⁾。特に、原子力発電所事故の影響を受けた福島県においては、人材の流出や社会資源の不足が顕著であり、地域のニーズ把握・整理が支援における重要な課題の一つとして指摘されている²⁾。

特に、福島県相双地域においては、壊滅的な被害を受けた資源を補うように、震災後にNPO 法人「相双に新しい精神科医療保健福祉システムを作る会」が設立され、精神科診療所と地域生活支援センターが創設され、震災型のアウトリーチ推進事業も受託している。しかしながら、支援活動を行う上で重い精神障害を持つ者の震災前後の状況や支援ニーズの把握は、情報不足から十分とは言えず、今後の調査が必要であることが現地支援者より挙げられた。

そこで、本研究では、東日本大震災による複合的かつ甚大な被害を受けた被災地の一地域（福島県南相馬市）において、重い精神障害をもつ者の、震災前後の生活実態に関する調査を行った。本研究により、被災地における重い精神障害をもつ人の震災前後の生活実態や支援ニーズを明らかにし、精神障害をもつ人のQOL（Quality of Life；生活の質）と関連する生活状況（地域の社会資源の利用など）を明らかにすることを目的とした。また、研究結果から、地域資源をどのように再構築することがQOLの向上につながるかの手掛かりが得られる可能性があり、今後の被災地における地域精神保健福祉活動のあり方に示唆を得ることが期待される。

B. 研究方法

1) 対象

東日本大震災の被災地の一自治体における重い精神障害をもつ者を対象とした。具体的には、福島県南相馬市における精神障害者保健福

祉手帳を所持している者を本研究の対象とした。対象者は220名であった。

本研究は、共同実施機関である南相馬市健康福祉部の福祉計画の改定をするための基礎資料とするために行われた。そこで、市内の精神障害者保健福祉手帳所持者全員を調査対象とし、未成年者も対象として含めた。

2) デザイン

本研究は、横断研究である。重い精神障害をもつ者とは、調査時点で南相馬市にて精神障害者保健福祉手帳を所持している者と定義して、この全数調査である。

3) 調査方法

本調査は、南相馬市健康福祉部と共同で実施した。調査票は、南相馬市健康福祉部より、調査対象者宛に郵送にて配布し、回収した。本研究では連結不可能匿名化したデータを解析した。

4) 調査項目

以下の領域の項目について対象者本人、あるいは支援者に回答を求めた。

- ・人口統計学的変数（年齢、性別、居住形態、世帯構成等）
- ・東日本大震災による影響に関する項目（震災前後の情報、および震災による影響）
- ・精神障害をもつ人の生活領域に関する客観情報（既存の研究「精神障がい者の生活と治療に関するアンケート（みんなねっとにより2010年実施）」をもとに作成）
- ・医療に関する情報（診断、合併症、通院状況等）
- ・本人が認識する生活の満足度、ニーズ、今後の生活への希望
- ・精神的健康度（World Health Organization-Five Well-Being Index）
- ・回答者について

また、未成年者における特有の状況（発達障

害等の合併状況等) や必要な社会資源・サポートに関する項目も加えた。

なお、調査票および依頼文書等は資料 1-3 を参照されたい。

5) 分析計画

まず、震災による影響、生活実態に関する客観情報、ニーズ等を把握するために、それぞれの項目について集計を行う。

次に、精神的健康度を目的変数、その他の客観的な状況やニーズを説明変数・調整変数として関連要因を探る。

自由記述回答に関しては、質的分析を行う。

C. 結果

平成 26 年 1 月に調査票を 220 名（精神障害者保健福祉手帳 1 級：30 名、2 級：138 名、3 級：52 名）に発送した。平成 26 年 2 月末日現在、116 件の回収があった（回収率：52.7%）。詳細については、現在解析中である。

D. 考察

重い精神障害をもつ人の生活実態を把握するためのいくつかの報告がある。まず、内閣府から、障害者白書が毎年報告されているが、精神障害者については、厚生労働省による実態調査が行われていないため、患者調査の報告を利用している。しかし、ここでの報告数は、医療機関を利用した精神疾患患者数であるために、日常生活や社会生活に制限を来している精神障害者の実態を正確に把握していない点が限界として述べられている³⁾。県レベルでその実態を把握する試みも行われているが、その取り組みはいくつかの先駆的な取り組みにとどまっている（埼玉県⁴⁾、奈良県⁵⁾）。また家族会が全国規模で行った調査（みんなねっと調査^{6,7)}）、地域家族会が行った調査（和歌山県家族会による 66 名の家族を対象とした面接調査⁸⁾、沖縄

県において行われた 437 名の家族を対象とした調査⁹⁾）などが散見される。しかし被災地域において、精神障害をもつ人本人を対象とした調査は、筆者が知る限りいままでに行われていない。

E. 結論

東日本大震災による複合的かつ甚大な被害を受けた被災地の一自治体（福島県南相馬市）において、重い精神障害をもつ者の震災前後の生活実態に関する調査を行った。本調査の回答率は 52.7% であり必ずしも高くないが、このような調査は初めての取り組みであり、重い精神障害をもつ人びとの大規模災害前後の生活実態を明らかにすることで、今後の保健福祉施策に資する基礎資料となることが期待される。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

文献

- 1) 吉田光爾, 種田綾乃, 鈴木友理子, ほか: 被災地における地域精神保健医療福祉に関するニーズの実態. 厚生労働科学研究費補助金「東日本大震災の被災地における地域精神保健医療福祉システムの再構築に資する中長期支援に関する研究」(主任研究者: 樋口輝彦) 総括研究報告書, 17-26, 2013.
- 2) 佐藤さやか, 種田綾乃, 鈴木友理子, ほか: 被災地における支援者に対する外部支

- 援の中長期的課題。厚生労働科学研究費補助金「東日本大震災の被災地における地域精神保健医療福祉システムの再構築に資する中長期支援に関する研究」（主任研究者：樋口輝彦）総括研究報告書，27-31，2013.
- 3) 内閣府.平成 25 年版 障害者白書(全体版)
<http://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/h25hakusho/zenbun/index.html>
(2014.3.3.最終アクセス)
- 4) 公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会
(みんなねっと) 精神障がい者の生活と治療に関するアンケート.
<http://seishinhoken.jp/researches/view/344> (2014.3.3.最終アクセス)
- 5) 公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会
(みんなねっと) 2012 (H24) 年度「家族会」全国調査
<http://seishinhoken.jp/researches/view/419> (2014.3.3.最終アクセス)
- 6) 埼玉県障害者の生活実態に関するアンケート
<http://www.pref.saitama.lg.jp/site/zittai/>
(2014.3.3.最終アクセス)
- 7) 奈良県調査報道
<http://sankei.jp.msn.com/region/news/131115/nar13111502150003-n1.htm>
(2014.3.3.最終アクセス)
- 8) 紀伊民報
<http://www.agara.co.jp/modules/dailynews/article.php?storyid=244153>
(2012 年 12 月 18 日記事)
(2014.3.3.最終アクセス)
- 9) 伊礼 優, 栗栖 瑛子, 當山 富士子, 田場 真由美, 大川 嶺子, 新城 正紀, 宮城 政也. 沖縄県における精神障害者家族の社会的および健康状況と生活の実態 地域家族会会員調査から. 沖縄県立看護大学紀要 8: 1-8(2007)

資料1: 対象者への調査説明文書

「東日本大震災後の生活に関するアンケート」 ご協力をお願い

福島県南相馬市健康福祉部長

調査協力: 独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所

このアンケートの目的は…

このたび、精神保健福祉手帳をおもちの方を対象として、このアンケートをお送りさせていただきました。

2011年3月に発生しました東日本大震災では、南相馬市内でも多くの方が被災し、市民の生活を支える医療や福祉の面にも、多くの被害がありました。障がいをもちながら生活されている方々の生活や利用されている支援にも大きな影響がありましたが、具体的にどのような変化があったかということの詳細が、未だ把握しきれていないのが現状です。

このアンケートは、精神障がいをおもちの方々が、震災の前と後で、生活がどのように変化したのか、今どのようなことにお困りなのか、どのような手助けがあればもっと暮らしやすいとお考えなのか、といったことなどをお聞きすることを目的としております。

このアンケート調査の結果をまとめ、これからの南相馬市の医療や福祉などの計画に役立てたり、事業所のあり方をよりよくしたりすることに役立てることで、みなさまの暮らしを少しでもよいものにできるのではないかと考えております。

このアンケートに参加するには…

- ◆ このアンケートは、答えを記入して封筒に入れ、送り返していただくことで、アンケートに答えることに同意して参加していただいたことになります。
- ◆ アンケートに答えるかどうかは、ご自分で自由にお決めください。答えなくても、何も不利益なことはありません。

このアンケートに答えるときには・・・

- ◆ アンケートへのご記入は、なるべく精神保健福祉手帳をおもちのご本人様にお願いいたします。
ただし、ご記入いただくことが難しい場合には、ご家族や支援者の方と話し合いながら、あるいはご家族や支援者の方が代理でご記入くださってもかまいません。
- ◆ このアンケートや封筒に、名前や住所などは書かないでください。
- ◆ 答えたくない質問には答えなくてもよいです。

このアンケートの結果は・・・

- ◆ ご記入していただいた内容は、厳重に管理いたします。個人情報外部に漏れることは一切ありません。
- ◆ このアンケートの分析は、国立精神・神経医療研究センターに委託します。
アンケートの回答内容は、市の障がい福祉計画策定の参考とするとともに、分析を委託する国立精神・神経医療研究センターにも研究のために提供することを、ご了承願います。
- ◆ この調査研究による成果は、学会発表や論文など、学術的な場のみで発表いたします。
そのときも、個人情報公表されることは一切ありません。

このアンケートにご参加いただける場合には・・・

アンケート用紙にご記入いただき、一緒にお配りしております返信用の封筒に入れ、
2014年2月14日(当日消印有効)までに、郵送してください。切手を貼る必要はありません。

※この調査研究は、国立精神・神経医療研究センターの研究事業を通じて実施しております。
ご不明な点等がございましたら、以下の問い合わせ先までご連絡ください。

【本研究に関する問い合わせ先】

南相馬市健康福祉部／国立精神・神経医療研究センター 合同事務局
障がいをもつ人の東日本大震災後の生活に関するアンケート係
〒187-8553 東京都小平市小川東町四丁目1番1号
電話番号 (調査専用ダイヤル) 0120-××-××××
(受付時間： 10：00 ～ 18：00)

【その他の研究に関する連絡先】

独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター 倫理委員会事務局
〒187-8551 東京都小平市小川東町四丁目1番1号
e-mail : rinri-jimu@ncnp.go.jp

資料2:調査票

ひがしにほんだいしんさいご せいかつ 東日本大震災後の生活に関するアンケート

【ご回答に際してのお願い】

- 質問のなかにある「あなた」は「精神保健福祉手帳をお持ちのご本人」のことを意味します。
- このアンケート用紙に、あなたのお名前やご住所を書く必要はありません。
- ご記入は、なるべく精神保健福祉手帳をお持ちのご本人にお願いいたしますが、ご記入いただくことが難しい場合には、ご家族や支援者の方と話し合いながら、あるいは、ご家族や支援者の方が代理で、ご記入くださってもかまいません。
- 答えたくない質問や、わからない質問には、答えなくてもかまいません。

ご回答の記入は、

(1) あてはまる項目の数字に○印をつける。

(2) 記入欄 に数値を記入する。

方法でお願いいたします。

※この調査について、何かわからないことなどございましたら、下記までお問い合わせください。

みなみそうましけんこうふくしぶ ちょうさぶんせきたいくさき こくりつせいしん しんけいいりようけんきゅう ごうどうじむきょく
南相馬市健康福祉部／調査分析委託先：(独) 国立精神・神経医療研究センター 合同事務局

担当窓口： 障がいをもつ人の東日本大震災後の生活に関するアンケート 係 (担当：種田)

住所： 〒187-8553 東京都小平市小川東町 4-1-1

電話番号： 0120-××-×××× (調査専用ダイヤル) (受付時間： 10:00 ~18:00)

～あなたの生活と、東日本大震災（2011年3月11日）の影響について、おうかがいします～

問1 あなたは現在、どこにお住まいですか（あてはまる番号1つに○）。

1 福島県内	2 福島県外
--------	--------

問2 現在のお住まいの形式はどれになりますか（あてはまる番号1つに○）。

1 持家	2 借家・アパート	3 仮設住宅
4 借り上げ住宅	5 親戚の家	6 グループホーム・ケアホーム
7 入院中	8 復興住宅	9 その他（ ）

問3 現在、どなたかと一緒に暮らしていますか。

1 はい（同居人数（自分を含む）： 人）	2 いいえ（一人暮らし）【→問4へ】
----------------------	--------------------

【1 と答えた方にお聞きします】

付問1 どなたと一緒に暮らしていますか（あてはまる番号すべてに○）。

1 親	2 兄弟・姉妹	3 祖父母
4 妻または夫	5 子ども	6 その他の親戚
7 知人・友達・恋人	8 その他（ ）	

問4 あなたの周りであなたを支えてくれる人（サポーター）の状況についてお聞きします。

東日本大震災の前と現在の状況について、次のそれぞれの項目で当てはまるものに○を付けてください。

	A：震災前の状況	B：現在
あなたが助けを必要としたときに、 実際に頼れそうな人	いた・いない	いる・いない
あなたがリラックスするのを 助けてくれる人	いた・いない	いる・いない
あなたの長所も短所も含めて すべて受け入れてくれる人	いた・いない	いる・いない
あなたに何があっても、 あなたを気にかけてくれる人	いた・いない	いる・いない
あなたが落ち込んでいる時、 気分がよくなるように助けてくれる人	いた・いない	いる・いない
あなたが動揺している時、 あなたを落ち着かせてくれる人	いた・いない	いる・いない

問5 現在収入がありますか。(あてはまる番号1つに○)。

- | |
|---------------|
| 1 定期的に収入がある |
| 2 不定期に収入がある |
| 3 収入はない【→問6へ】 |

【1もしくは2 収入があると答えた方にお聞きします】

付問1 収入をどこから得ていますか(あてはまる番号すべてに○)。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 会社やアルバイトで働いてもらう給料 | 2 夫/妻の収入 |
| 3 障害年金または老齢年金 | 4 家族(両親)や兄弟からのおこづかい |
| 5 作業所の工賃 | 6 生活保護 |
| 7 震災関係の補償金など | 8 その他() |
| 9 わからない | |

問6 東日本大震災により、収入に変化がありましたか(あてはまる番号1つに○)。

- | | | | |
|---------|-------|---------|-------|
| 1 無くなった | 2 減った | 3 変わらない | 4 増えた |
|---------|-------|---------|-------|

問7 現在あなたは、日中をどのように過ごしていますか(あてはまる番号1つに○)。

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1 家にいて、ほとんど何もしていない | 2 家にいて、家事をしている(手伝いも含む) |
| 3 仕事や学校などに通っている | 4 その他() |

【3 仕事や学校などに通っていると答えた方にお聞きします】

付問1 どこで、どのくらい(1週間に何時間くらい)の時間を過ごしていますか。

あてはまる番号すべてに○をつけ、どのくらいの時間を過ごすかを記入してください。

- | | | |
|-------------------------|----|--------|
| 1 仕事、学校など | (週 | 時間くらい) |
| 2 福祉関係の事業所、地域活動支援センターなど | (週 | 時間くらい) |
| 3 その他() | (週 | 時間くらい) |

問8 東日本大震災であなたが経験したことは何ですか(あてはまる番号すべてに○)。

- | | | | |
|------|------|---------------------|----------|
| 1 地震 | 2 津波 | 3 原子力発電所事故(爆発音を聞いた) | 4 いずれもなし |
|------|------|---------------------|----------|

問9 東日本大震災で大切な身近な人を亡くされましたか(あてはまる番号1つに○)。

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

問10 東日本大震災による家屋被害認定の結果は何でしたか(あてはまる番号1つに○)。

- | | | |
|---------|--------|---------|
| 1 被害なし | 2 一部損壊 | 3 半壊 |
| 4 大規模半壊 | 5 全壊 | 6 わからない |

問11 東日本大震災により避難ひなんされましたか。

避難ひなんされ、避難場所ひなん ところが移うつったことがありましたら、移動いどうした回数を（ ）内にお書きください。

- 1 避難ひなんした（ 回） 2 避難ひなんしなかった

問12 東日本大震災により、あなたの生活は変わりましたか（あてはまる番号1つに○）。

- 1 よくなった 2 少しよくなった 3 どちらともいえない 4 少し悪くなった 5 悪くなった

問13 東日本大震災の前後で、ご自身の生活やご自身みづかみを含めた家族かぞくや支援者しえんしゃの生活にどのような変化へんかがありましたか。震災前後の生活においてご苦労くろうされたことなど、ご自由にお書きください。

～医療いりょうと福祉ふくしサービスの利用について、おうかがいします～

問14 現在、精神科せいしんか的な症状しょうじょうのために、医療機関いりょうきかん等にかかっていますか（あてはまる番号1つに○）。

- 1 かかっている 2 かかっていない【→問16～】



問15 【1 かかっている と答えた方にお聞きします】

主おもにかかっているのは、次のどの医療機関いりょうきかんですか（あてはまる番号1つに○）。

- 1 精神科せいしんか・神経科しんけいかの診療所しんりょうじょ（クリニック）
2 いろいろな科がある一般病院いっぱんびょういんの精神科
3 大学病院だいがくびょういんの精神科
4 精神科の病院
5 その他の医療施設いりょうしせつ
6 わからない

【1～5と答えた方にお聞きします】

付問1 現在、その医療機関いりょうきかんにはどのくらいの頻度ひんどで通っていますか（あてはまる番号1つに○）。

- 1 1～2週に1回くらい 2 月に1回くらい 3 2ヶ月に1回以下
4 具合ぐあいが悪くなった時だけ 5 その他（ ）

付問2 震災前とくらべて、医療機関への通院はどう変わりましたか。
あてはまる番号1つに○をつけ、その理由をお書きください。

1 とても通いやすくなった	2 やや通いやすくなった
3 変わらない	4 やや通いにくくなった
5 とても通いにくくなった	

(理由: _____)

問16 あなたは、これまで精神科に入院したことがありますか。

1 ある	2 ない【→問17へ】
------	-------------

【1 と答えた方にお聞きます】

付問1 これまで何回くらい、精神科に入院したことがありますか。

1 1回	2 2~4回	3 5回以上	4 わからない・忘れた
------	--------	--------	-------------

問17 現在受けている精神科医療全体について満足していますか(あてはまる番号1つに○)。

1 満足	2 まあ満足	3 どちらともいえない	4 やや不満	5 不満
------	--------	-------------	--------	------

問18 東日本大震災により、利用する医療や福祉のサービスなどは変わりましたか。

1 よくなった	2 少しよくなった	3 どちらともいえない	4 少し悪くなった	5 悪くなった
---------	-----------	-------------	-----------	---------

問19 次の(a)~(p)の治療や福祉のサービスなどについてお聞きます。

【A：利用状況】震災前の1年間と現在(過去1年前)について、
あなたが利用していた(している)ものに○を、
特によく利用していた(している)ものに◎を付けてください。

【B：今後の希望】
それぞれのサービスについて、
利用したいと思いますか？

	A：利用状況		B：今後		
	震災前 1年間	現在	利用 したい	ない 利用 した く	どちら とも いえ ない
(a) 入院生活			1	2	3
(b) 精神科の薬を飲むこと(薬物療法)			1	2	3
(c) 入院ではなく2~3泊休息できる施設 (ショートステイ・レスパイト)			1	2	3
(d) 掃除、買い物、食事など自立生活ができるように訓練できる 場所(入所・通所型生活訓練)			1	2	3
(e) 掃除や食事の用意など、家事を応援してくれるホームヘルプ サービス			1	2	3

(つづき)

【A：利用状況】 震災前の1年間と現在（過去1年前）について、あなたが利用していた（している）ものに○を、特によく利用していた（している）ものに◎を付けてください。

【B：今後の希望】 それぞれのサービスについて、利用したいと思いますか？

	A：利用状況		B：今後		
	震災前1年間	現在	利用したい	ない 利用したくない	どちらとも いえない
(f) 福祉施設・事業所のスタッフが自宅を訪問して、生活のための練習や相談を行ってくれるサービス			1	2	3
(g) 医療機関の医師・看護師・ワーカーなどが自宅を訪問して、生活や病気の相談にのってくれるサービス			1	2	3
(h) 仲間とともに軽作業や自主製品をつくる場所（作業所など）			1	2	3
(i) デイケア			1	2	3
(j) 日頃のくらしの相談や支援にのってくれたり、仲間との交流が行える身近な場所（地域活動支援センター）			1	2	3
(k) おなじ病気をもつ仲間が相談にのってくれたり支援してくれるサービス（ピアサポート）			1	2	3
(l) 就労をめざした訓練を行ったり、働くための能力や知識を高めていく場所（就労支援の事業所・施設）			1	2	3
(m) 専門家が就労前後に一緒に継続的なサポートを行ってくれるサービス（ジョブコーチ）			1	2	3
(n) 就職について気軽に相談を受けられる場所（ハローワーク／職業センター）			1	2	3
(o) グループホーム・ケアホーム			1	2	3
(p) 入居契約や家財道具の準備など、一人暮らしを支援してくれるサービス			1	2	3

問20 ご自身の生活やご自身を含めた家族や支援者の生活にとって、必要と思う支援やサービスがありましたら、ご自由にお書きください。

問21 あなたは、現在の生活にどの程度満足していますか（あてはまる番号1つに○）。

- | | | | | |
|------|--------|-------------|--------|------|
| 1 満足 | 2 まあ満足 | 3 どちらともいえない | 4 やや不満 | 5 不満 |
|------|--------|-------------|--------|------|

問22 現在のあなたの生活のなかで、困っていることはありますか（あてはまる番号すべてに○）。

- | | |
|------------------|-------------|
| 1 住む場所(住居)のこと | 2 お金、収入のこと |
| 3 人づき合い | 4 日中を過ごす場所 |
| 5 仕事や勉強のこと | 6 余暇の過ごし方 |
| 7 家事など、身の回りのこと | 8 精神科の病気のこと |
| 9 精神科以外の身体の病気のこと | 10 その他 () |

付問1 この中で、特に困っていることを2つ選んで、番号を書いてください。

1番困っていること 2番目に困っていること

付問2 生活のなかで困っていることは、具体的にどのようなことですか。

問23 生活全般について、仕事、趣味や娯楽についてなど、あなたご自身ができるようになりたいことがありましたら、ご自由にお書きください。

問24 以下のa～eのそれぞれの項目について、最近2週間のあなたの状態についてお聞きします。もっとも近い番号1つに○を付けてください。

最近2週間、私は・・・	いつも	ほとんどいつも	半分以上の期間を	半分以下の期間を	ほんのたまに	まったくない
(a) 明るく、楽しい気分で過ごした	1	2	3	4	5	6
(b) 落ち着いた、リラックスした気分で過ごした	1	2	3	4	5	6
(c) 意欲的で、活動的に過ごした	1	2	3	4	5	6
(d) ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた	1	2	3	4	5	6
(e) 日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	1	2	3	4	5	6

※最後に、必ずご記入ください※

問25 現在（平成26年1月1日現在）、あなたはおいくつですか。

--

 歳

問26 性別は何ですか。

1 男性	2 女性
------	------

問27 あなたは、自分の障がいの状態（病名）を知っていますか。

1 知っている	2 知らない 【→問28へ】	3 聞いたが忘れた 【→問28へ】
---------	----------------	-------------------



【1 知っている と答えた方にお聞きます】

付問1 あなたの状態（病名）は、以下のどれにあたりますか（あてはまる番号すべてに○）。

1 統合失調症	2 そううつ病（気分障害、感情障害、そう病、うつ病）
3 統合失調感情障害（非定型精神障害）	4 神経症（不安障害、パニック障害、恐怖症など）
5 認知症	6 発達障害（広汎性発達障害、高機能自閉症など）
7 その他（	）

問28 あなたが最初に精神的に具合が悪くなったのは、何歳ごろですか。

--

 歳（ごろ）

問29 あなたの精神保健福祉手帳の等級は何級ですか。

--

 級

問30 あなたは、精神保健福祉手帳以外の手帳をお持ちですか。

1 持っている	2 持っていない 【→問31へ】
---------	------------------



【1 持っている と答えた方にお聞きます】

付問1 お持ちの手帳の種類すべてに○をつけ、（ ）内に等級をお書きください。

1 身体障害者手帳	（	級）
2 療育手帳	（	級）

問31 このアンケートを記入したのはどなたですか。

1 本人	2 家族（続柄：	）	3 その他（	）
------	----------	---	--------	---

問32 どのような状況で記入をしましたか（あてはまる番号1つに○）。

1 ご本人自身ですべて記入した	2 家族・支援者が本人と一緒に記入した
3 全て家族・支援者が記入した	

※アンケートにご協力いただきまして、誠にありがとうございました※

資料3:リマインダー文書

東日本大震災後の生活に関するアンケートへの回答のお願い

福島県南相馬市健康福祉部長

調査協力：独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所

先日、精神保健福祉手帳をおもちの方を対象として、東日本大震災後の生活に関するアンケートをお送りさせていただきましたが、あらためて、ご回答のお願いです。

このお願いは、アンケートをお送りした方全員にお配りしておりますので、既にご回答いただいている場合には、再度のお願いとなってしまったことをお許しください。

このアンケートでは、精神障がいをおもちの方々が、震災の前と後で、生活がどのように変化したのか、今どのようなことにお困りなのか、どのような手助けがあればもっと暮らしやすいとお考えなのか、といったことをお聞きしたいと考えております。

アンケートに回答されないことによるあなたの不利益は一切ありませんが、今後の医療や福祉の計画を作り、みなさまの暮らしを少しでもよいものとしていくため、どうかこのアンケートにご協力いただき、ご意見をお聞かせくださいますよう、お願い申し上げます。

お忙しいところ大変恐縮ではございますが、**2月21日（金）**までにご返送いただきますよう、お願い申し上げます。

ご不明の点は、下記にお問い合わせください。

【本研究に関する問い合わせ先】

株式会社 山手情報処理センター内 アンケート調査事務局

東日本大震災後の生活に関するアンケート係

電話番号 0120-××-×××× (調査専用ダイヤル) (受付時間：10：00～18：00)

【その他の研究に関する連絡先】

独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター 倫理委員会事務局

〒187-8551 東京都小平市小川東町四丁目1番1号

e-mail：rinri-jimu@ncnp.go.jp